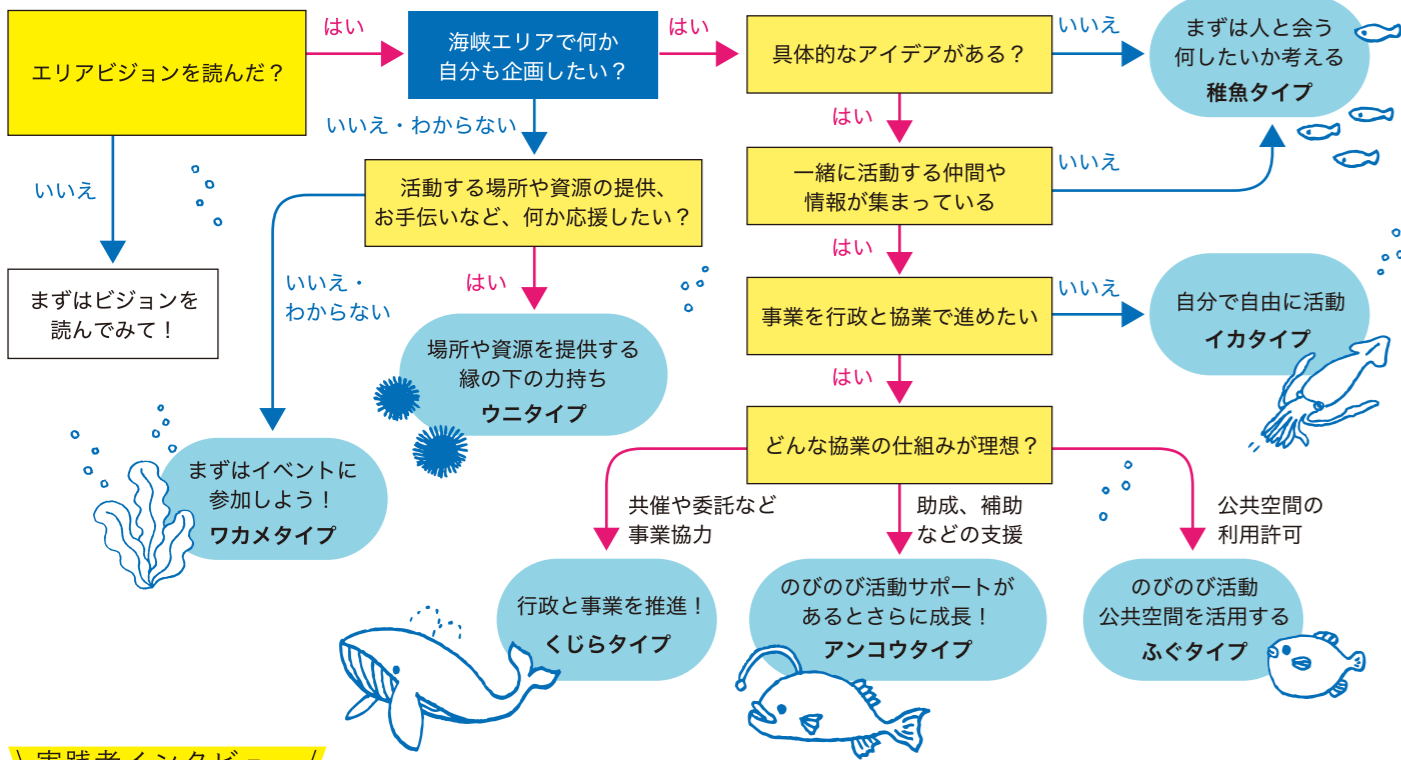


「ビジョンを実現していくために」

ビジョンの実現に向けて、市民、事業者、専門家及び行政が一体となって取り組みを検討、進めていく体制を構築します。海峡エリアで活動してみたい、エリアビジョンと親和性の高い事業アイデアがある！など思いついたら、ぜひご参加ください。まずは下のチャートで自分の今のタイプを調べてみましょう。



「実践者インタビュー」

すでに海峡エリアで取り組みをスタートした実践者たちに、まちなかで活動する意義、そして市民・行政・事業者で進めていくポイントについてインタビューしました。



ふくタイプ



まずは誰かに会いに行くこと、やりたいことを話すこと。そこから、縁が繋がって取り組みがスタートする。

なかむら みゆさん

コロナ禍でもミモザの花をみんなで広場や道といった街角に飾ることでつながりを生み、気分を軽やかにする「春をよぶ♡街角ミモザプロジェクト」を開催。マルシェイベントや海が見える朝ごはん会なども。モットーは苦しくなく続ける！

Q. 取り組みをスタートしたきっかけは？

コロナ禍で集まるのも難しい状態のなか何かできないかと、まちの人がふと元気をもらえるようにと、街角にミモザを飾る企画に行き着きました。昨年エリアビジョン策定のワークショップで行政の方や協力してくれる方と出会えたのも大きいですね。

Q. まちなかで取り組むメリットや反響は？

街角で取り組むことで、特定の人ではなく様々な人に知ってもらえること。ただ観てもらっただけじゃなく、一緒に飾りつけや掃除、活動資金の支援など様々な関わり方をつくったことで、たくさんの人に参加してもらいました。実施した直後はどれぐらい反響があったかわかりませんが、徐々に「見たよ」という声をきくようになりました。

Q. 下関で可能性を感じているところは？

どこからでも海につながっていること。海のある風景、まちを生かした取り組みや、市内の文化施設を活用した取り組みもいつかしてみたいですね。



まずは、想いを持つ仲間を探したり、協力者を探したりしたい人は… ▶ 地域ワークショップへ参加



アンコウタイプ



通うたびに少しずつ下関という街を知り、好きになっていました。そんな人をもっと増やしたい。

木村 智史さん

奈良県出身。災害支援の中で市内の元旅館の活用について相談をうけたことからスタート。その後イベントへの参加などから徐々に一緒に取り組む仲間を見つけ、今に至る。現在DIYによるリノベーション工事中。4月に「BRIDGE」オープン予定。

Q. 取り組みを進める上で気をつけていたことは？

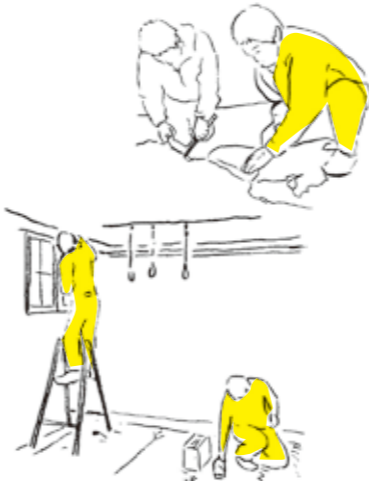
たくさんの人たちの声をきくこと。活用を考える内覧会を開き、興味がある人から隣近所の方達にも参加してもらいました。対話をしていく中で、自分の独りよがりではなく、地域に求められていることでもあり、やってみようと思えました。

Q. 助かった支援やつながりは？

人づてに紹介してもらったり、地域のイベントに顔を出したりして知り合いを増やしました。また、下関市の空き家改修の助成があったので活用しました。

Q. これからの展望は？

今やっとはじめることができたので、次は続けていくことが目標だと思います。コロナ禍が終わったら、いろんな人の下関に来てもらって良さを知ってほしいです。今後は空き家や空き店舗について悩んでいる人から相談してもらえるように運営メンバーとともになっていければいいと思います。



取り組みをスタートさせたい!という人は… ▶ 地域ワークショップへ参加、またはエリアビジョン推進室へ相談



くじらタイプ



これまでは規制の多い時代。これからは緩めていく時代。できない理由じゃなくできる方法を一緒に考える。

吉田 悟さん

R3年1ヶ月間開催されたカイキョーソトアソビの主催である海峡エリア賑わい創出実行委員会の委員長。下関生まれ下関育ち。公の事業に携わることで日頃暮らして感じる課題の解決につながればと委員会に参加。

Q. 今回の取り組みのポイントは？

実行委員会とすることで公民連携したことが一番のポイントです。私たち市民は普段の生活で感じている問題意識をどう事業とつなげていくかが重要です。行政も民間も互いにリスクも役割も担うことで、一丸となって取り組むことができました。また、ビジョンをとことん話し合うことで、手法が目的にならないように進めました。行政と民間の良い点を合わせれば、短期間で長期にわたる事業を生み出すことができると思います。

Q. コロナ禍での取り組みの進め方は？

SNSツールも含めて、コミュニケーションを取る機会をなるべく多く持ちました。イベントに関してはどうしても「やるか、やらないか」の2択になりがちです。今回は「やる方法を考える」ことでフレキシブルに対応し、実施しました。結果としてたくさんの人に来てもらうことができました。

Q. 下関市のもつ可能性は？

私たちがやったことは派手なイベントではありませんが、感動満足度はとても高かったです。これはももとのポテンシャルが高いということ。大きなショッピングモールがあることではなく、山で遊ぶことが楽しかった、海での思い出など下関でないと得られない体験がこどもたちの記憶に残ることでシビックプライドにつながると思います。



行政と事業を推進したい!という人は… ▶ エリアビジョン推進室へ相談

みんなで彩る海峡

海峡で何か始めたい人の
ステップアップガイド

下関海峡
エリアビジョン

下関海峡エリアビジョンは、市民、事業者、行政など海峡エリアに関わる全ての人々が共有すべき「羅針盤」です

全体ビジョン

カイキョー暮らし。

カイキョー、よってく？

全体ビジョンのコンセプト

- 1 「他にはない」海峡の魅力を、「いつも側にある」体験に昇華する
- 2 心に残る体験を重ねて、「カイキョーで暮らしたい」という想いを育む
- 3 体験を重ねていく人が、さらに体験を生み出す人になる

3つのエリアとエリアごとの将来の方向性

下関海峡エリアビジョンの策定にあたってはエリアが広く、市民や観光客によって異なるイメージを持たれていることから、下関駅エリア、あるかぼーと・唐戸エリア、火の山・壇ノ浦エリアの3つに分類し、将来の方向性や取り組みを検討しました。



火の山・壇ノ浦エリア

山海空アドベンチャーエリア

将来の方向性

火の山の自然と眺望、壇ノ浦の歴史を楽しむ、光の山

取り組みの例

森・はらっぱの自然と眺望や歴史を活かした体験型コンテンツ



あるかぼーと・唐戸エリア

未来アソビマナビエリア

将来の方向性

次代を担う子ども・若者を中心に憩い・遊び・学びがあふれる場

取り組みの例

海峡の景観や屋外スペース等を活用した取り組み



下関駅エリア

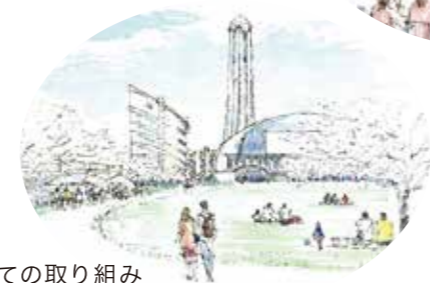
多世代ウォーカブルエリア

将来の方向性

小さな取組が集まって、まち全体が多世代の居場所になる

取り組みの例

公共空間の利活用、空き店舗や空き家をリノベーションしての取り組み



エリアビジョンへの関わり方



海峡エリアに関わろう
まずはイベントに参加してみませんか？すでに活動している人も、他にどんな動きがあるかぜひのぞいてみてください！エリアビジョン推進室HPでも情報を発信しています。

エリアの仲間とつながろう
何かやりたいけど、どこからスタートすれば？自分の持っている場所を使ってほしい…。そんな時は地域ワークショップなどの集まりに参加してください。誰かと話したり、つながることで進むかもしれません。

エリアを使いこなそう
具体的な企画があったり、活動したいエリアがはっきりしている人はエリアビジョン推進室へぜひご相談ください。担当する課や助成事業とつなげたり、一緒に実現するお手伝いをします！

下関海峡エリアビジョン

発行/下関市
編集/下関市総合政策部エリアビジョン推進室



エリアビジョン/地域ワークショップ等のお問い合わせ先

総合政策部エリアビジョン推進室
〒750-8521 下関市南部町1番1号
TEL:083-231-5838 FAX:083-232-9569
E-mail:ssareavi@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

創業についてのご相談

創業支援カフェ (KARASTA, カラスタ)
〒750-0007 下関市赤間町1-10 TEL:083-227-4747
HP:www.karasta.jp/

エリアをつなげる、広がる

3つのエリアをつなげて回遊性を向上させるため、「新モビリティの検討」、「ウォーカブルの推進」、「情報の連携」を行い、さらに魅力あふれるまちを目指します。3つのエリアをつなげることによりにぎわいが連鎖し、国道9号以北や長府等のエリアへも波及する効果が期待できます。